

第4回新宿区文化芸術振興会議（第6期）要旨

■開催日時 令和4年3月31日 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 星山晋也 松井千輝 的場美規子

大野順二 中島隆太 大和滋 岡室美奈子 飯田直子（欠席 垣内 恵美子）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 小泉文化観光産業部長 菊地文化観光課長 原文化観光係長 加藤

■議事の進行

1 開会

(1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。

(2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

(1) 新宿区文化芸術振興会議の内容確認について

資料1-1及び資料の1-2に基づき、前回会議（令和3年12月10日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

(2) 調査審議事項

第6期調査審議事項について、資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料3-1、資料3-2、資料4-1及び資料4-2に基づき、説明した。

(3) 意見交換

(4) その他

【以下、意見交換】

■専門部会の報告

・調査審議事項については、会議のご意見を元に専門部会で意見交換を行った。「新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるICT活用」があったが、技術の急速な進歩が続いていることと、コロナの状況が見通せないという中で、様々な文化施設や関係団体の状況が、二極分化を含めて、定まらない部分があるという議論になった。

・もう1つの調査審議事項「新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」については、前回の振興会議において新宿駅周辺についての開発状況の説明を受け、質疑応答で終わり、議論が十分に行われていないということがあった。

・こうしたことと、コロナウイルスのため会議が1回開催できなかったこともあり、現時点

で確定的な提言が困難ではないかというところに結論が至り、今後の議論の深化も視野に入れながら、今期の活動報告は「中間のまとめ」というようなことにしたほうがいいのではないかと考えた。詳細は、事務局から説明する。

■＜事務局＞資料説明

■委員発言

・ICTについては、当初はSFMIほか区内の文化団体の活用方法などについて議論があり、SNSの活用状況等を調査した。明らかになったのは、団体ごとに大きな違いがあり、活用できているところでも組織的ではなく、組織内の個人がやっているような状況があった。人材育成ではないが、SNSを活用する勉強会みたいなのをやったらという議論があった。

・コロナ禍で、新宿区がライブハウス等の動画配信の支援に取り組み、東京都もやった。文化庁の支援事業として、演劇のアーカイブを作ることがあった。区及び文化庁も含めて、どちらかと言うと支援の体制は続かないで終わっている感じ。

・オーケストラの例のように、スポンサーがあれば有効に発信できるという状況があり、今後どう活用していけるかは、個々の団体のポジションなどによって違う。

・動画配信等の次の一手として、公的にどう関われるのかというので、先ほどの民間提案制度みたいな、若い人に何か支援制度を、新しいものをという議論もあったが、なかなかスキーム等が見出せない状況になった。

・有効性はあるのは確かで、各芸術家団体及び区民、都民が生かしていく関係をどのように作るかは重要な観点で、何らかの公的な施策として考えていくことが必要と思う。

・新宿駅西口も大きく変わる。長期的な観点で言うと、まちと文化の関係。文化は無形なので、どういうことができるのか。広場ができるので、そこに文化的要素のスペースとか何かが作れるような、文化事業が起こるような方向性の議論をして、20年先を目指すような、この会議として公的な方向性を打ち出すことで、新宿区内部とか再開発の事業者に影響を与えていくような何かができれば理想的と思う。

・ICTの活用に関して中心的に議論されていたのが、芸術文化を主体的に活動している側にいろいろな課題があり、その方たちがICTをどう使いこなしていくかということと理解した。

・それは非常に重要な問題と認識しつつも、ICTは道具なので、目的として、人材を育てるとか、次世代にどう文化芸術をつなげていく、その意味や価値みたいなものをそれぞれにきちんと持ってもらえるようにつなげていくにはどうすればいいか。

・それが新しい文化創造にもつながっていくことが望ましいという視点も新たに出てきたのではないかと考えると、それらを掛け合わせて考えたときに、どう文化芸術を次の世代につなげていくことができるかという視点も大切ではないか。

・文化芸術そのものを、未来の人たちがきちんと紐解けるように、きちんと残していくということに加えて、文化芸術に自分なりの価値を見出すようなリテラシーを、きちんとその

時代の人たちが持ち得るかが、非常に重要ではないか。

・そうすると、文化芸術そのものを残すということなので、どちらかと言えばリアルと言われている場のもので、アーカイブ的なところでICTが担えるかもしれないが、ICTは、平たく言えば鑑賞の部分で何か担うことができないかと考えた。

・例えばZ世代も、SNSに慣れていて、社会課題等々にも意識的で、本質的に物事を捉えようと考えている世代と聞いており、自分にとってそれがどういう意味があるのかを考えながら、それを発信してシェアできる感じ。

・例えばSNSを通してのそういう仕組みを、文化芸術を持つ施設と、そこでリテラシーをきちんと保有している専門職とともに小さく作り、広げていくようなことができると、波及的に文化芸術が、より親しみのあるという、身近な日常的な視点でもってつながっていくのではないか。

・新宿駅周辺地域の文化芸術活動主体の連携の促進だが、再開発に影響を与え得るような提言、事業にもつながるといふまでの大きなこととして、考える起点として、公開空地はもちろんチャンスとして捉え得るべきものだと思う。

・新宿ならではの部分で、文化発信のあり方を、この会議としての仮置きみたいなところをすることが、この議論が散らないようにするために、必要なステップではないか。

・例えば、新宿が非常に多様性を持つ文化を育んできたという特徴とか、新宿駅の乗降者が非常に多く、そこで完結するというよりは通過しながら、いつもそこにアクセスをしているということを考えたとき、人はそこに集まって去っていくが、そこで得たものを新宿にとどまるではなく、多様な文化がそこにあるというようなことを、サテライト的に新宿エリアでゲットできるというような、東京西部の文化のサテライトみたいなことを標榜するような、それを具現化するようなことができないかと考えた。

・上野などが東部にあり、例えば、西部で新宿に限らず渋谷や池袋なども包含しながら、文化のサテライトということも考えられるのではないか。

・区の文化の支援のあり方として、配信等の個々の文化を支援していくのか、新宿として何か大きな文化の特徴を作っていくのかの2点がある気がした。

・今出ている話は、前者の気がする。もちろん区として、個々の文化芸術への支援は非常に重要だと思う。演劇博物館が「JDTA」を開設し、演劇の公演記録映像の情報を検索できるサイトをつくった。

・それを今後どう拡充していくか。例えば、区内の劇団・劇場の舞台公演映像を権利処理してデジタル化し、演劇博物館に委ねれば、サイトで日本語と英語の2カ国語で国際発信できる。そういうことをどの劇団・劇場もできるように支援していただくなどの具体的な方法もあり、新宿区としてそういう個々のサポートも必要。しかし、やはり文化として何を打ち出していくかという視点が必要ではないか。

・60年代あたりでは、新宿は間違いなく文化の中心だった。東京都だけではなくて、日本全体の文化の中心であった時代があり、その頃は演劇も新宿が中心で、音楽などいろいろ

な文化の中心であり得たと思うが、その後、文化の中心が移ったり拡散したりした。

- 例えば、今では、演劇のまちは豊島区。東京都もある種お墨付きを与えているようなところがあり、豊島区が演劇の中心。横浜市はDance Dance Danceなどの取組みがあり、ダンスのまちという印象もある。あるいは六本木では六本木アートナイトのような取組みがある。

- そういう非常に特徴的な文化的な取組みによって、「このまちはこういう文化のまちだね」という打出し方がある。新宿区は今、どういう文化のまちなのかと考えたときに、非常に分かりにくい気がする。

- かつて新宿の西口といえばすごく人が集まっていた場所。ただ、60年代の学生運動とともにあったので、その後規制されていった歴史がある。コロナ禍が収束しなければいけないが、60年代とは違う形で、新宿の西口に新たに人がたくさん集まるような特徴的な文化的なイベントをできないか、この会議で考えられないか。

- 例えば新宿は多国籍のまちだから、多国籍のお祭りをやる、ライブハウスが多いのでライブハウスのお祭りをやるとか。新宿の文化は、駅周辺だけでなくいろいろな所に点在しているのいいところなので、点在している様々な文化的なスポットも巻き込みながら、新宿の西口を中心とした何かそういうお祭りのようなものができるか。それによって新宿の文化の1つの特徴を打ち出していければ、もう少し新宿が文化的なまちとしてイメージアップできるのではないか。

- そのテーマは何がいいのか。私の世代ではジャズなどが思い浮かぶが、今の若い人はあまりジャズを聞かないかと思う。若い人たちが今、どういう文化を求めているかというリサーチが必要だと思うが、何か新宿の特徴的な文化を作っていく。

- その一方で、個々の文化芸術を支援していく。他方ではそういう大きな特徴をつくっていく。ただ六本木アートナイトでも、かつては一夜限りのお祭りだったが、最近は一夜限りのお祭りに公的な資金を投入するのはどうかという話もあり、スパンを持つようになった。そういうことも視野に入れながら、新宿の特徴的な文化をどう作っていくかということも考えられないか。

- ICTの活用や公開空地の活用は、ある種手段であり、原点に戻って、新宿区の強みは何か、我々は何者なのだとこのところ、新宿区が何を指すのかと、1回きちんと大きなコンセプトを出すと、そこに手段がはまっていくという気がする。今、池袋は演劇だと。

- 横浜はダンスと言ったが、新宿のコンセプトは混沌としていてカオスというようなところがある。特に新宿駅周辺。そうすると持続的に新しい文化芸術を生むゆりかごになる。こういうコンセプトを出していく。そのために何をしていくのか。

- 多分、新宿は伝統的にはそういう文化が、新しい星ができていくゆりかごみたいな、いろんなものを吸収していくもの、設備があり、例えばそういうところも1つ大きく掲げると、持続的というのはサスティナビリティで、文化継承していくことにもつながる。

- そのためにまず第一弾として何をやるか。公開空地の利用、活用も、ICTの活用も、全

部多分そこにつながる話だと思う。

・本当にゆりかごかどうか。例えば、そういう施設が新宿駅周辺にどのようなものが幾つあるというデータはあるのか。データで強みを発信するというのは、「新宿区はこういうまちなのだ」と定量的に示す。小さなスタジオが何百あるとか、演劇できる場所が何百あるとかいうところを見せていくと、多分、他の区では絶対に追いつけないデータになっていく。

・そういうのを取りまとめていくと情報発信のサイトができるが、その情報発信は誰がやるのか。その所属の事務所の人がやるのか、情報発信大使みたいな人を任命してやるのかというところにつながっていく。

・公開空地は、例えば新しい文化芸術を生むゆりかごとして利用するとすれば、法的規制とかがいろいろとあるので、西口の公開空地も自由に何やってもいいという話には今できないと思う。そういう場を提供するための整備みたいなことも1つ課題に上がってくるのではないか。

・一番申し上げたいのは、新宿区は「こういう区を目指す」というところを、もう少し分かりやすい言葉で表現していくと、議論もまとまるし、区民もついてくるのではないか。

・6期になると壮大な計画になってきたな、つかみどころがないというのが正直なところ。今までは「文化センターをどうする」「パイプオルガンをどうする」など具体的なことだったが、今回はICT。「ICTの活用」は、ぼやっとしているが、何でも活用なのだろうと思うし、人材もそうだが、映像を編集できる人材を若者で確保することもそうだろう。あまり大き過ぎて、現場の人間としてはもう少しフォーカスしたほうがいい気がする。

・新宿区は、田舎の者からするとラスベガスのものであり、ニューヨークのもので、ブロードウェイのようなところでもあり、またロンドンのようなところでもあるという、ものすごく魅力的なところだと思うが、今一歩ぼやっとしたものがあのかと思う。

・ICTにおいて、今回6期目の取りまとめのポイント。私はやはりもう少し焦点を絞ったほうがいいかなと。漠然とし過ぎてしまったと思う。

・文化芸術分野以外でも、新宿区としてSNSで発信していくのは正直難しい状態にあるかと思う。YouTubeの新宿区公式チャンネルがあるが、登録者数が5,000人位で非常に少ない。再生回数もどれも少なく、非常にがっかりした。渋谷区や豊島区のようなICT化が進み、文化やまちのアピールが非常に上手な印象の区でも、登録者数が1,000人台と新宿区よりも少ない状態で少し驚いた。

・行政がいくらYouTubeに力を入れても、まちの発展やアピールにはなかなかつながらず、時間を割くだけという感じなので、YouTubeをやることにあまり意味がないと思った。

・Twitterにしても、1日当りの利用時間が多いのは10代から20代になるが、使っている人たちは、リアルタイムで情報収集をしたり、リアルな友達と交流を図ったりすることを考えると、行政が文化芸術を発信するツールとして使っていけるものなのか。かえって発信することが手間になると思う。

・タイムラインが早い分、詳細に関してはホームページやブログなどのリンクを張らなければいけない。その点を考えるとやはりTwitterはあまり行政向きではないのかと思ひ、ならば、アーティストが自分自身で発信していくツールとして使っていくべきなのかと思う。

・Facebookは30、40代のビジネス層が利用するということだが、新宿区関連の発信している情報を見ているが、内輪で「いいね」を押して終わるという感じが否めず、Facebookから新宿区のイベントを発信して、集客につながるような感じではない気がする。

・Instagramの利用は、20代が最も多く、次に10代、30代と続くが、インスタ映えをするものを上げるのは、行政としてはなかなか難しい。動画機能のリールやストーリーズがあるが、割と若い子や有名人たちは使っているので、新宿区としてはYouTubeと同様に助成金で援助するとか、機材や会場の貸出しなどをして、アーティストをフォローする側に回るのがよいと思う。

・TikTokは、今10代の子たちは友達同士とか、大勢の仲間で集まって勝手にやっているの、それは若い子達にお任せして、特に行政としては関わる必要がないかと思う。

・SNSアプリは本当にいろいろなものがあり、目的に合った使い方をしないと全く意味がなかったり、時間帯によってもバズり方が違うとか、いろいろな技がインターネットにもあふれている。そういったこと考えると、やみくもに手を出せばいいわけでもない。

・以上から、区として先導できないならば、徹底してサポート側に回る。助成金や、会場の貸出しとか、そういったこともあるが、サポートしてバックアップしていくことをメインにやるほうがよいと思う。

・まちづくりに関して、前回会議で、長期的開発というのは分かったが、ビルが立ち並ぶことで、果たして新宿区の文化芸術や歴史がどのように発展していく、結びついていくのかは、まだ想像ができない。

・西口や都庁方面に人を増やしていくのであれば、リニューアルされた中央公園や、住友三角広場などを使い、今のうちから、例えば音楽のフェスや、食のイベント、ファミリー向けで人を呼ぶとか、多国籍のイベントなどもしながら、人の流れをつくっておいて、もっと盛り上げるべきと思う。

・例えば、他区のように一つの分野を絞れないのであれば、絞れないことを売りにする。USJはいろいろなキャラクターがいて、本当にカオスな状態で一体何がやりたいのかよく分からないが、集客してみんなが楽しんでいるので、そのカオスな状態を新宿区として売りにして、いろいろなことを、いろいろな分野、いろいろな文化をやるということもありかと思う。

・歌舞伎町が東横キッズのことでよく報道されていて、非常にまたイメージが悪くなったという印象で残念なので、今のうちからその問題に取り組んでいただければいいと思う。

・全体的には、コンセプトを打ち出したほうが分かりやすいのではないか。「ICTの活

用」だが、目的の「人材を育てる、次世代に文化芸術をつなげていく」にフォーカスして考えた。今までいろいろな議論してきたが、なかなか進んでいない感じが強く、少し観点を考えてみてはどうかと思った。

- 人材を育てるとか次世代につなげるということ。つまり、Z世代とかではなく、さらに若い小学生や中学生ぐらいまでのところにICTを持っていく。彼らはデジタルネイティブなので、文化などに対して関心や興味を持つようにもっていくと、好きなことを勝手に広げてくれるのではないかと思った。

- 今あるものを何とかしようという考え方ではなく、もっと若い子に文化に触れてもらう、文化を好きになってもらう、興味を持ってもらうということに種をまくことが大事なのではないか。

- 何ができるかと言うと、今話題になっている「GIGAスクール構想」があり、それを何とか結びつけることはできないかと考えた。

- 栃木の矢板市が「デジタルミュージアム」というサイトを作り、オンライン上で市内の文化財を鑑賞できる。新宿ほど大きな規模ではないが、文化財があって、土地のものを知ってもらって受け継いでもらうという取組みで、デジタルがすごく活用されている。例えば出土された土器などが、全方向から見られ、子どもたちが関心を持てる。

- さらに、リアルでも分かってもらうため、レプリカを貸し出すことで、より関心を持ってもらう取組みが成功事例として挙がっていた。1つの事例として考えていいのではないか。

- ICTは、どこから取り組んでいいのか難しいが、視点を変えてそんなやり方もどうかと思い提案した。

- まちづくりだが、東口はルミネが広場に、松山智一さんデザインのインスタレーションをつくった。西口は何をというところが議題の中にあるが、時代が本当に変わっていくし、20年、30年後、何がはやっているのかもわからない中で何ができるのかと思った。

- 今やってもいいのではないかと思うのが、新宿はいろいろな文化があり、ダイバーシティということで、文化はいろいろな人全員に行き届かなくてはいけない。

- 障害を持つ人の話はなかなか出ていなかった。パラリンピックもあり、パラスポーツで人気も出てきたものもあり、新宿には国立競技場、オリンピックミュージアムもあるし、西口の広場を使って本当に誰もが楽しめるような仕組みがあってもいいと考えた。

- 例えば、視覚障害のある広瀬先生が、触れることにすごく力を入れている。見えなくても触れることで何かを感じるということなので、西口の広場にいろいろなモニュメントなどが置いてあり、触れることで何かを感じられるとか、それが別のいろいろなところでも「こういうこととつながりますよ」なんてことができても面白いかと考えている。

- ダイバーシティは必ず進めていかなくてはいけないことだから、健常者だけではなく、本当にいろいろな人が楽しめるような文化的なものをつくっていくということも、考えてみてはどうかと考えた。

- 要点は新宿駅周辺の未来と、コロナ禍におけるICTの活用という問題に絞られると思

う。新宿駅周辺の発展は、国が非常に関心を持っているらしいし、都も考えているのだろうと思う。国と都と新宿が役割分担とか、それについて何か話し合いがあったりするのかな。

- ・西口の発展には小田急百貨店、小田急電鉄が大変関係するようだが、新宿区にはデパートが幾つかあり、デパートの文化活動もあるはずで、そういう話を聞くチャンスがあっただろうのではないかな。

- ・新宿駅周辺の開発の中で、未来志向や再開発の中で消えてしまうようなものを何とか阻止してもらいたい。具体的には思い出横丁、ゴールデン街、末廣亭とか、そういうのも残しながら開発を考えていただきたい。

- ・ICTの活用について、「文化芸術を次世代へ継承する」「文化芸術の担い手を育てる」と。この活用は、コロナ禍、いろいろな災いの中では、絵画や演劇というものの代用的な役割。直接見るときの感性の問題で代用であるのだが、そういうものは間に人が入ってしまうので、そういう感動は得られないが、代用的な活用ということも考えているのだろうが、資料には入れておいてほしかった。

- ・特に新宿全体を見据えた駅周辺の地域というような、これからのこともある。まず新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるICTの活用。この文化芸術振興会議。文化を振興というか、文化を我々がどうやって生きていくかという方法。もちろん行政にお願いする部分、援助してもらう部分というのがあるが、まずは文化をどうやって創造し、次に伝えていく。これは、基本的に我々の問題だと思う。

- ・では、どういう形でやったらいいか。それをうまくICTの時代に合わせるためにどうすればいいかというのは大変面白い意見があり、それを我々としてまとめて、区にお願いする形で。例えば実際に文化を生み出す演劇関係で、いろんなものがある。その記録、アーカイブをつくるという。美術館などもそうで、アーカイブは非常に重要。それは記憶の遺産を、ずっと我々に遺してくれる。文化は、1つは記憶である。

- ・しかし遺産としてではなく、実際に我々の活動にどう使っていくか。「ゆりかごだ」という意見。それに基づいて新しいものを作っていけばいいと。「お祭りをやったらいい」という意見。お祭りも過去のものを受け継ぐのではなく、何か新しいものをつくらせ。重要なのは芸術文化、その大変重要なものをどうやって生み出していくかということ。

- ・ICTは、どんどん新しく発展していくと思う。アーカイブにしても、過去のもものがすぐパッと見られるようになっていくかもしれない。そういうものは重要で、それを使ってどうやっていくかというのが、お祭りなり、ゆりかごなり、そしてリアルの問題。

- ・記憶の遺産やアーカイブはリアルとどこか違う。やはり芸術文化はどうやってリアルに触れていくかということで、ICTがあまり発展すると、それで全部分かったような気になる。そうではなく、本当に下手でもいいから音楽を実際に聞いたときの感性が、大変重要な問題だと思う。

- ・行政の力を使う空間の問題、特にこれからいろいろとあると思う。

- ・リアルはあらゆる文化に関わり、場所、空間と時間が必要である。これはICTでは捨象

されてしまう。実際にオーケストラを聞くとか、芝居をその場で見るとか、美術も作品に接するとか。

・ICTがあればVRで、こういう絵がある、ディテールがよく見える、それは非常に大事。実際に、美術では美術作品があちこちにあり、展覧会があって、とても全部見られないが、ICTを使うと、「こういうものがある」とかディテールまでよく知らせてもらえる。非常にありがたく、もちろん重要な文化遺産を味わうというのは大変大事。

・しかし、どれほど細かく解説やディテールを見ても、作品に直接触れたときとは違う。そのことでは、視覚障害の方などにそういうリアルなものをどうやって味わってもらおうか。

・味わうというのは味覚の問題。伝統的に茶の湯だとか、随分儀式ばっているが、結局味わいの問題。その味わいをお祭りにしたわけだが。秀吉の醍醐の茶会みたいな大きなもの、逆にうんと小さいところでやる、それが一国の文化だと思う。

・そういう広い意味で、リアルなものに触れていく。それも目、耳、あらゆる感覚、人間の存在として触れていく。そのため、日本の文化が伝統的につながってきた。それを、どのように行政にお願いするか。場所を確保してもらおうとか、場所が必要だから空間をつくるとか、それから時間の問題とか。

・特にコロナ禍になるとあまり人が集まるとはいけないとか。お祭りというのは人々が集まることで意味が出てくるわけだが、直接接触しなくても集まるということで感覚的につながっていく。そういうリアルの問題だと思う。ICTではそれが離れてしまうわけだが、それはそれでつながり方があるのだと思う。それを行政にどうしようにお願いできるか。

・費用の問題、そこにパブリックマネーも、皆さんの寄付に助けてもらおうとか。

・それからICT、複製や何かのときに、権利関係が非常に重要になる。文学でも、文章を教科書に使うときに権利があるから著作権料を払うとか。では教科書に載せた場合、どれだけ払えばいいか。全くただで使われても困る。その辺のところは行政、著作権の場合には文化庁の問題とか。そういうことを考えていただく。

・この会議として大変に鋭いご意見があって「こういうことをやりたい」ということを申し上げて、行政にそれをうまく受け止めていただきたい。

・ICTの話。ICT世代、若い人は簡単に分かるが。あと10年ぐらいは紙が必要であるという話が出てきた。いろいろな案内でも、紙による案内が必要であるとか。

・外国の人もICTをうまく使う人もいるし、全然分からない人もいるし、言葉の問題もある。その人たちにどのように伝えるかということも、いろいろ行政に考えていただく。

・つまり注文をつける。我々の意見が文化創造のために必要だから、皆さんのご意見、非常にいいご意見。「こういうことをやりたいのだ」、行政はそれを受け止めていただきたいと考えている。というのが今日の議論で非常にはっきり見えたと思う。

・SFMが始まった頃、新宿区の雑多、混沌、多様性みたいなことを強みとして打ち出そうという観点があり、その流れが10数年来た。都内のいろいろなスポットの状況を見ていて、ここ数十年で都内各地のスポットの特徴が明らかになってきている。

・例えば、上野は明治維新に帝国博物館ができて以降、博物館や美術館等いわゆる公的な施設が多いまちになっていき、文化拠点としては非常に特異な、官の文化のまちみたいになっている。

・池袋も、東京芸術劇場ができた効果というか、かなり官的なイニシアチブで動いているところもあって、近年伸びてきている。渋谷もどちらかという東急資本のまちみたいなどころがある。

・一番特徴的というか、新宿と銀座は民のまち。文化的には完全に民がやっている。銀座というのはどちらかという日比谷・銀座は日本の近代化を背負ってきたまちで、歌舞伎からミュージカルまで大きいものが多くあり、日本の文化の近代のエスタブリッシュメントみたいなどころがある感じ。

・新宿は60年代が、という話がある。やはり、音楽のスポット、演劇のスポットがあるが、基本的に小スポットで、大きい場がないのが非常に特徴。ある特徴を打ち出すなら、こういう蓄積を無視できないだろう。混沌を生かしてきたということはあるが、他の都市との関係性から見ると、やはりコンセプトをそろそろ持ったほうがいい気はする。

SFM、西口という焦点を当てるのなら、新宿全域だとかなり多様になるが、西口という観点で何らかのコンセプトを見つけ、打ち出す手はあるという気はする。それと、ICTもうまく絡めてやっていくとかがあってもいいのかと。そういうことや、お祭りをやることによって、西口の再開発に影響を与えていくとか、方向性も含めて、そんなことが考えられるといいのかと。コンセプトを与えないで混沌のほうがいいという意見もあるが、何か絞ったほうがいい。

・〈事務局〉新宿のまちの特徴として、例えば小劇場やライブハウスなどが幾つなのかという質問について、新宿のまちの魅力についての2017年のレポートでは、ライブハウスは23区で一番多い。また、映画館や、小劇場、文化施設数も上位にある。

また、ゆかりの人物、歴史上の人物も含め、文化人がどのくらい今現在いるかということも10位よりは上にいる。そういう区で、「これが一番」というところが絞れない。

・それは新宿の豊かさかもしれない。

・先ほどお祭りのことを言ったのは、ICTのことがあまりに漠然としているので、やはり新宿は、新宿という場所に文化を求めて人が集まってこない、なかなかその新宿の文化というものが形になっていかないのではないかという気持ちで申し上げた。

・新宿が何を指すかをはっきりさせることが大事という意見や、コンセプトのことを指摘する意見があった。そういうことを考えたときに、メインにならないかもしれないが、新宿はある意味でマイノリティのまちのような気もする。例えば、いろいろな国の方がいたり、性的マイノリティの方がたくさんいたりとか。例えば新宿2丁目のレインボーフェスティバルのようなものもあるが、何かそういうマイノリティに寄り添うまちという気もする。

・例えばお祭りも、そういうマイノリティが主体となるようなお祭りを計画していくとか、

それは例えば障害者が主体となるお祭りがあったり、そういう多国籍の人たちが主体となるお祭りがあったり、あるいは性的マイノリティ、レインボーフェスティバルをもう少し大きくしたようなやつとか、そういうことも考えられる気がする。

- ・「JDTA」のシンポジウムで、多分ご自身が障害者である参加者から「アーカイブもバリアフリー化してほしい」という発言があった。それは物理的なバリアフリーではなく、ソフト面でのバリアフリーと理解したが、サイトでは2カ国語で発信しているが、健常者が前提となっている。例えば健常者が前提とならないような文化のあり方を、新宿区として何か示せないか。

- ・それはリアルなフェスティバルもそうだが、デジタルミュージアム的なもの。そういうものを、障害のある人でも楽しめるような形で発信していけないかと考えられる気がする。

- ・行政が作るものは、大体つまらないものが多い。それをどう面白く見せていくかということだと思う。実際にそういうフェスティバルのようなものがあって、その情報発信であれば、例えばTwitterなども有効だと思う。「うちの展示やイベントをどこでお知りになりましたか」と調査したら、Twitterが一番。チラシ、ホームページ、ニュースレターなど幾つか宣伝媒体あるが、特に20、30代辺りでTwitterが断トツ。コロナ禍ということも大きいと思う。

- ・あまりチラシをまいていないこともあるので、普段ならもう少しチラシの効果もあると思うが、そういうことを考えると、結局はコンテンツと発信の仕方だと思う。いかにも行政みたいなかんじでは、多分誰も読まないと思うので、いかに面白く発信していくかということと、いかに発信する内容が面白いかということだと思う。

- ・それ自体が中心の柱にならないかもしれないが、1つはそういうマイノリティの人に寄り添うような文化のつくり方を、新宿区として打ち出せないかと思う。

- ・多国籍のまちや新宿二丁目があったり、ダイバーシティを地でいっているのは新宿区だけだと思うが、そうした特長を何か生かせるような方向は、1つの柱としてあり得るのではないか。

- ・それが豊かさで、要は絵画なら絵画だけやっていたら、そこから新しいものが生まれるのか。実はもっと違ったものがあって、音楽とも触れ、劇団とも触れ、そういう人たちが例えば、新宿三丁目とか、ああいうところで夜な夜ないろんな人が集まり、そういうところから文化が生まれていくという歴史が多分ある。

- ・そういう意味で「ゆりかご」ということなので、ゆりかごがなくなってしまうと、地方の都市では大規模店舗のスーパーばかりになってしまうと、寂れていく。

- ・芸術もきっと同じことがあって、そういう小さな枠組みというのは、まさに弱者が活躍できる場、空間なので、それがいろいろな部分であるというのが、やはり新宿の強みだと思う。その強みをどうやって生かしていくかということところにフォーカスし、どうやって生かすか、発信していくかということらにつなげていくのが大事なのではないか。

- ・ICTの活用については、その緒に就くところでは、そういうところが一元化されて検索

できるもの。それは区民、都民だけではなくて観光客についてもそう。そういうものはきつと将来生きていこう。

・但し、そのサイトを生かしていく人たちは行政ではなくて、そこにツイートしていく一般の人たち。そうすると、我々がやってみて、そういうものは何に対して一番いいかというと、ユーザーというか一般のコンシューマーにとっていいだけではなくて、主催者、我々に重要な意見とかがダイレクトに見られる。つまり情報が還流する。こういう仕組みになれば、最終的にはいいのではないか。

・そういう意味で「これが一番だというのはありません」というのは、もしかすると豊かさであり、新宿区の強みであり、それだけのマーケットというか、キャパシティというか、ある一定の量があって、それを1カ所で受け止められる地域が、もしかすると新宿の強みなのではないか。

・会議として大変重要な問題が出てきた。今のようなお話、大変参考になる。芸術文化を人々に広めていく、発信する、それと触れ合う。それはマイノリティも当然考えなければいけないということで、考えてみたら私はICTマイノリティである。それも考えていただいて、あらゆる人々に行政は目配りをしていただきたい。

・中間のまとめの案を作成していただき、次回の会議でお示しいただくよう、専門部会にお願いする。

3 事務連絡等

第5回目の会議は6月～7月頃の開催予定とし、日程や会場等については別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午後4時に閉会した。

注)

*SFM：新宿フィールドミュージアム

*JDTA：Japan Digital Theatre Archives